

花王は、科学的根拠に基づくリスク評価手順とリスク管理手順を用いて、化学物質が人の健康と環境にもたらす著しい悪影響を最小化することを目的に、開発、製造、および使用から廃棄に至るライフサイクル全体にわたって化学物質を適切に管理し、Kirei Lifestyle Planのもと、責任ある化学物質管理を推進して社会のサステナビリティに貢献していきます。

社会的課題と花王が提供する価値

認識している社会的課題

化学物質は私たちの豊かな生活を育み、世界の人々の喜びと満足のある豊かな生活文化の実現に不可欠です。その反面、化学物質が人と環境に負の影響を与える側面もあります。

2002年に開催された「持続可能な開発に関する世界首脳会議(WSSD^{※1})」において、「予防的取組方法に留意しつつ、透明性のある科学的根拠に基づく(化学物質の)リスク評価手順とリスク管理手順を用いて、化学物質が人の健康と環境にもたらす著しい悪影響を最小化する方法で使用・生産されることを2020年までに達成する」との国際目標、いわゆるWSSD2020年目標が合意されました。この目標の達成に向けて2006年に「国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ(SAICM^{※2})」が取りまとめられ、国連環境計画において承認されました。

しかしながら、各国・地域でのこれまでの努力にも関わらず、世界全体ではこの目標を達成できない可能性が高いことが認識されており、2030年に向けてより一層の取り組みが求められています^{※3}。

- ※1 WSSD
World Summit on Sustainable Development
- ※2 SAICM
Strategic Approach to International Chemicals Management
- ※3 Global Chemicals Outlook II (UNEP, 2019)
世界化学物質アウトルック第2版(国連環境計画、2019年)より

花王が提供する価値

花王は、世界的な化学物質管理強化の動きを踏まえ、2009年に公表した「環境宣言」の中期目標で「SAICMに沿って積極的に化学物質の管理に努める」ことを掲げました。

2012年には全社体制として「SAICM推進委員会」を発足し、これまでに開発・運用していた独自の「化学物質総合管理システム」基盤のさらなる深化を含めて、化学物質の管理を強化しています。

今後は、「責任ある化学物質管理」を重点テーマの一つとして掲げたESG戦略であるKirei Lifestyle Planのもと、サステナブルな社会の実現に貢献します。

貢献するSDGs



「2030年のありたい姿」の実現に関わるリスク

化学物質を適切に管理しない場合、人健康や環境への問題を引き起こす可能性があり、事業の継続が困難になります。

「2030年のありたい姿」の実現に関わる機会

花王が「責任ある化学物質管理」を推進することで、サステナブルな社会実現に貢献し、社会的信頼を得るとともに競争優位を獲得する機会となります。

方針

花王では、工業用製品から家庭用製品まで幅広く化学物質を取り扱っており、以前から、積極的に化学物質管理を進めてきました。さらに、国際的に合意されたSAICMに沿って化学物質管理を推進・強化しています。

2013年に策定した「SAICM推進の基本方針」は、花王の化学物質に関する全社的な管理方針を規定したものであり、花王の化学物質管理のベースとなっています。

今後も、2019年4月に公表したESG戦略のテーマの一つとして「責任ある化学物質管理」を推進していきます。

SAICM推進の基本方針

1. より安全性にすぐれ、価値のある化学物質の開発と使用、環境負荷の少ない製造プロセスの開発
2. 科学的なリスク評価とライフサイクル全体を通じた化学物質管理
3. 化学物質に関わる法規制・自主基準の遵守と国際協力・国際協調の推進
4. ステークホルダーとのリスクコミュニケーションの推進



→詳細は「SAICM推進の基本方針」
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/saicm-policy.pdf

教育と浸透

花王では化学物質管理の一環として、化学物質を取り扱う作業者を中心に、講習や外部有識者の講演会等を継続的に行ない、化学物質管理に関する正しい理解を深めていきます。

ステークホルダーとの協働／エンゲージメント

花王は顧客や消費者に、製品の安全性にも関わる化学物質の情報を伝えるほか、産業界、行政当局、外部有識者、外部専門家等、対象に応じた協働やコミュニケーションを通じて、ステークホルダーとともに「責任ある化学物質管理」を推進していきます。

体制

花王(株)は、SAICMの目標達成に向けた取り組みを具体的に加速させるため、社長執行役員が委員長を務めるサステナビリティ委員会(現:ESG委員会)のもとに「SAICM推進委員会」を2012年に発足させました。

SAICM推進委員会は、社長執行役員をレポーティングラインとし、品質保証部門担当常務執行役員が委員長を務めており、品質保証部門、ケミカル事業部門、研究開発部門、SCM部門、ESG部門のトップマネジメントが委員として参加しています。

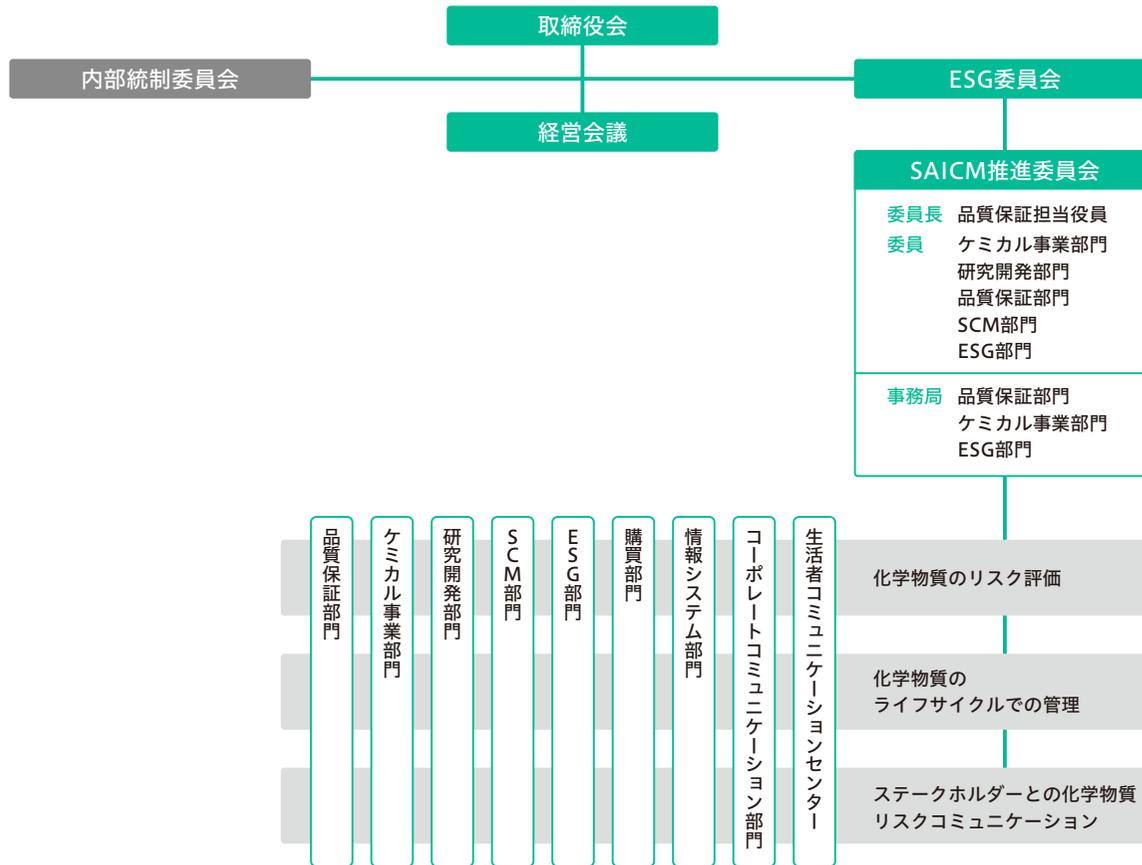
主として;

- (1)化学物質のリスク評価
- (2)化学物質のライフサイクルでの管理
- (3)ステークホルダーとの化学物質リスクコミュニケーション

の3つを花王における主なSAICM推進活動として掲げ、それぞれに対応するプロジェクトを設置して活動を推進しています。各プロジェクトのミーティングに加え、年に3-4回開催されるSAICM推進委員会では、進捗報告のほか、外部有識者を招いた講演会や、2020年以降の花王がめざす化学物質の管理に関する取り組み等の議論を行なっています。

責任ある化学物質管理 103-2

SAICM活動推進体制



※2019年12月現在

化学物質総合管理システム

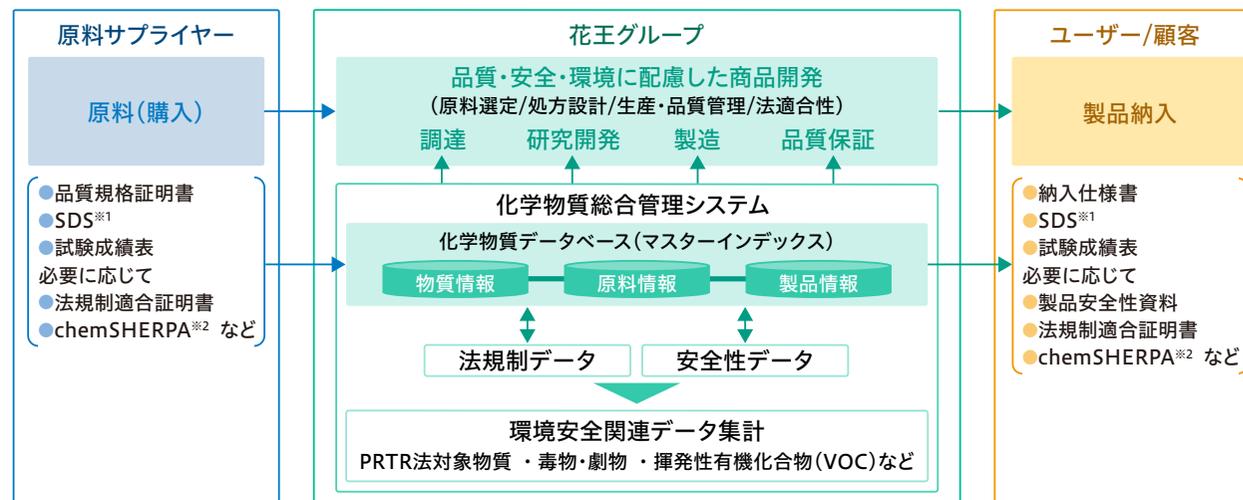
花王ではSAICM活動推進体制を中心とした化学物質管理の強化に加え、サポートツールとして高度なITシステム「花王化学物質総合管理システム」を開発し、利用を推進しています。

このシステムでは、工業用製品から家庭用製品に至るまでの多様な製品の化学物質情報を管理するため、2001年から個々の原料・製品に「マスターインデックス(Master Index)」というグループ共通コードを用いて運用してきました。

個々の製品に含まれる種々の原料について、その構成成分にまで分解してデータベース化し、製品ごとにどのような品質、安全性、防腐性、法規制情報などを持った原料が使われているかを確認できます。万一、原料に問題が発生した場合、あるいは新たな懸念物質などが発生した際は、影響範囲を特定し、適切な対応ができるようになってきました。専門スタッフが一元的に管理する「化学物質総合管理システム」を各部門で共有し、グループ一体となって化学物質の適正管理を積極的に進めています。

また、化学物質に対する規制のグローバルでの変化や、事業分野やエリアの拡大に対応すべく、化学物質総合管理システムのさらなる強化を進めています。

花王化学物質総合管理システム



- ※1 SDS
Safety Data Sheet
化学製品を安全かつ適切に取り扱うために、製品に含まれる物質名、危険有害性情報、取り扱い上の注意などに関する情報を記載した書類。
- ※2 chemSHERPA
製品に含有される化学物質を適正に管理し、拡大する法規制に継続的に対応するためのサプライチェーン全体で利用可能な新しい情報伝達共通スキーム。
→chemSHERPA ウェブサイト <https://chemsherpa.net>

Kirei Lifestyle Plan
 目次
 編集方針
 トップメッセージ
 Kirei Lifestyle Plan 中長期目標解説
 独立保証報告書
 快適な暮らしを
 自分らしく送るために
 思いやりのある選択を
 社会のために
 よりすこやかな
 地球のために
 正道を歩む

中長期目標と実績

2020年中期目標

1. 化学物質のリスク評価

花王では、製造・使用数量、人や環境への曝露量や、花王の企業活動における重要性などを考慮して「花王優先評価物質」を選定しています。それらの物質について、リスク評価の基本方針に基づいて環境への影響が予想される範囲も含めて評価し、適切に管理しています。



→リスク評価の基本方針
chemical.kao.com/jp/sustainability/saicm/article_03/

化学物質のリスク評価は以下を目標にしています。

- 花王優先評価物質(19カテゴリー)のリスク評価の2020年までの実施



→花王優先評価物質の安全性要約書
chemical.kao.com/jp/sustainability/saicm/article_05/

19カテゴリーの例

- ・アルキルグリコシド(非イオン界面活性剤): 台所用洗剤、住居用洗剤、身体洗剤、シャンプー等一般家庭で幅広く使用
- ・ポリオキシアルキレンアルキルエーテル(非イオン界面活性剤): 衣料用洗剤、台所用洗剤、住居用洗剤、シャンプー、漂白剤等一般家庭で幅広く使用
- ・直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム(陰イオン界面活性剤): 衣料用洗剤、台所用洗剤等一般家庭で幅広く使用
- ・トナー用ポリエステル樹脂(トナーバインダーとして使用されるポリエステル樹脂)

2. 化学物質のライフサイクルでの管理

化学物質を取り扱う現場で化学物質が作業者の健康に悪影響を及ぼさないように、以下の目標を設定しています。

- 化学物質を取り扱う現場でのリスクアセスメントおよび対策の2020年までの実施と、新規取り扱い物質のリスクアセスメントおよび対策の継続

3. ステークホルダーとの化学物質リスクコミュニケーション

花王が製造・販売している化学物質の安全性情報をサプライチェーン全体に伝達し、化学物質に関わる安全を確保し適切に使用、対応できるように、以下の目標を設定しています。

- 花王優先評価物質の安全性要約書20件の2020年までの公開と継続
- ケミカル製品のGPS 安全性要約書*150件の2020年までの公開と継続

※ GPS 安全性要約書

一般社会に対して化学物質の安全性情報の概要を提供する書類。物理化学的特性のほか、リスクが適切に管理される使用・加工の取り扱い条件、リスク管理措置などが記載された書類で、川下ユーザーへの情報伝達にも利用される。

責任ある化学物質管理 103-2,103-3

2030年に向けた議論

ESG戦略のもとで「責任ある化学物質管理」を推進していくにあたり、2030年に向けて工業用製品から家庭用製品まで幅広く化学物質を取り扱う花王としてのめざす姿と実現するためのアプローチを設定しました。具体的な目標や取り組み等については議論を継続しています。

花王のめざす姿

花王は、世界の人々が化学物質の恩恵を享受し、リスクが適切に管理される安全・安心な社会の構築に貢献したいと考えます。この社会の実現に向けて、ESG活動を通じて「責任ある化学物質管理」を先導していきます。

5つのアプローチ

1. 製品ライフサイクル全体で環境負荷を最小化

原材料調達から開発、製造、輸送、販売、使用、廃棄・リサイクルまで製品ライフサイクルの全段階において社会と協働し、持続可能な社会に貢献するモノづくりを促進

2. 化学物質による事故ゼロの実現と、地域社会の安心を醸成

多様化する化学物質のリスクを、原材料調達・製造・輸送・廃棄の段階で管理強化

3. 化学物質のリスク評価の適正化と、管理効率の向上への貢献

行政・学界・関連業界と共にリスク評価手法の構築と適正化を行ない、化学物質が社会全体で適切かつ効率的に管理されることで人健康や環境へのリスクが最小化されるよう貢献

4. 化学物質の有用性と安全性に関する情報をわかりやすく開示

化学物質の有用性と、安全に使用するための情報を、消費者をはじめ社会に広く開示

5. 社会からさらに信頼される企業になるためのコミュニケーション

人々の多様化する価値観やライフスタイルに応じたコミュニケーションの推進

2019年の実績

SAICM推進委員会では、2019年の各プロジェクトの目標として以下を掲げ、計画通り活動しました。実績の詳細は、「具体的な取り組み」に記載しています。

2019年の目標

1. 化学物質のリスク評価

- ①花王優先評価物質のリスク評価および評価書の作成(3カテゴリー)
- ②リスク評価結果について外部専門家と学会にて議論
- ③リスク評価技術・手法の論文化
- ④化学物質総合管理システムのグローバル展開継続とさらなる強化

2. 化学物質のライフサイクルでの管理

- ①化学物質を取り扱う現場でのリスクアセスメントに基づいたリスク低減対策
- ②作業場GHS*表示の日本の10工場完了と日本以外の工場への展開継続

* GHS

Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals
化学品の分類および表示に関する世界調和システム

3. ステークホルダーとの化学物質リスクコミュニケーション

- ①SAICM推進活動成果物の一般公開
花王優先評価物質の安全性要約書3件、ケミカル製品のGPS 安全性要約書18件
- ②双方向コミュニケーションの実施と検討継続
ステークホルダー:産業界、行政、顧客、消費者

実績に対する考察

花王の化学物質に関する取り組みにおいて、全プロジェクトで目標を達成しました。取り組みを通じて新たに認識した課題は委員会で共有し、2020年の活動計画案に盛り込み対応していきます。

また、2030年の中長期ビジョンである、めざす姿を実現するための議論を進めています。

具体的な取り組み

化学物質に関する社内教育

2019年は、以下の活動に取り組みました。

- ・品質保証部門と研究開発部門が中心となり化学物質管理の社内説明会と外部有識者講演会を3回開催し、約350人が参加しました。
- ・SCM部門では入社時・配転時の教育から専門分野・経験に応じた教育プログラムを構築しており、その中で化学物質の危険性・有害性に関する教育を行ないました。

ステークホルダーとの化学物質に関するコミュニケーション

SAICM推進の基本方針を踏まえ、以下の活動に取り組みました。

1. 産業界との連携

産業界の化学物質管理の取り組みに貢献するため種々の活動に参加しています。

日本の化学工業界がSAICMに貢献するために化学物質管理を強化する自主的な活動であるJIPS^{※1}に積極的に参加するほか、2020年以降の化学品の自主管理を支援する活動のあり方について化学品管理委員会の下で議論しました。

また、欧米の化学業界と共に日本化学工業協会が推進するLRI^{※2}にも引き続き積極的に参加して、研究の支援を行ないました。

※1 JIPS

Japan Initiative of Product Stewardship

SAICMの合意を受けて、国際化学工業協会協議会(ICCAs)が推進している「グローバルな化学物質管理を強化する行動指針(GPS)」に基づいた取り組み。

※2 LRI

Long-Range Research Initiative

化学物質が人の健康や環境に及ぼす影響に関する研究を長期的に支援する国際的な取り組み。

2. 行政との連携

日本の化学物質管理に関わる行政関係者に協力して、花王のSAICM推進活動や化学物質管理に関する2020年以降の枠組み等について意見交換を継続しています。2019年は国の行政機関と4回の意見交換を行ないました。

また、化審法などの化学物質規制で用いる環境評価手法をさらに精緻化するため、業界団体を通じて行政の検討会に積極的に参加して意見を交わしました。

3. 代理店・顧客との連携

含有化学物質情報の提供

ますます強化される各国・地域の法規制や業界基準に対応するため、花王はケミカル製品に含まれる化学物質の管理(製品含有化学物質管理)を積極的に進め、顧客へ情報提供しています。

顧客への製品含有化学物質情報の提供に関して、経済産業省が主導して開発した製品含有化学物質情報伝達スキーム「chemSHERPA」を業界に先駆けて採用し(2017年9月)、最新版のchemSHERPA-CI^{※3}を花王のウェブサイト継続的に公開(日本語・英語・中国語)しています。

2019年は花王の主要なケミカル製品について、3月と9月にchemSHERPA-CIの最新版を公開しました。なお、日本においては販売代理店の協力を得ながら自主的に顧客に配布しました。

※3 chemSHERPA-CI
特定の化学物質情報を伝達するための化学品データ作成支援ツール。

SDSおよび製品ラベルのGHS対応

製品に係わる最新化学物質関連情報を顧客に提供するため、ケミカル製品では、各国のGHSに対応したSDSの発行、製品ラベルの貼付を推進しています。

2019年は、日本およびアジアの拠点からGHS運用国・地域(日本、欧州、米国、アジア)へ新規に販売する製品について、GHSラベルの作成と貼付を行ないました。また、GHS運用国・地域の法規動向を確認し、必要に応じてSDSやラベルの更新を行ないました。

また、日本においては、2022年6月までの新JIS^{※4}への移行を目標に、準備を開始しています。

一方、2020年を目標に強化を進めている化学物質総合管理システムに、世界各国の最新GHSに準拠したSDSおよび製品ラベルを迅速に作成・管理する機能を持たせる予定です。

※4 JIS
Japanese Industrial Standards, 日本産業規格

販売代理店との連携

ケミカル事業部門では、販売代理店と花王(株)との専用ネットワーク(エクストラネット)で前述したSDS

やchemSHERPA-CIなどの情報を共有し、サプライチェーンでの化学物質管理を協働で推進しています。

2019年は、これらの改訂情報や化学物質関連法規制、輸出入管理に関する最新情報を掲載して顧客への対応を依頼しました。

また、10月に和歌山事業場で開催した代理店新入社員研修会では、花王の化学物質管理に関する取り組みについて説明しました。さらに、11~12月に主要代理店11社を訪問して、世界の化学品法規制を含む最新動向や対応について情報交換を行ないました。

4. 消費者との連携/コミュニケーション

花王(株)は、化学物質のリスクと正しい使い方の理解を深めるため、消費者や事業所周辺の方々とのコミュニケーションを継続しています。

2019年の主な活動は以下の通りです。

- ・工場周辺住民や自治体とのコミュニケーションを日本の10工場で行ない、より地域特性に即した取り組みにするための解析を実施
- ・医学部の学生と化学物質のリスクをわかりやすく伝える方法を議論
- ・社会における化学物質管理への理解向上のために、花王(株)社員が『即戦力への一歩シリーズ 01 化学物質管理』(化学工業日報社)を執筆し発行

中期目標に対する2019年の実績

2020年の中期目標に対する2019年の実績詳細は以下の通りです。

1. 化学物質のリスク評価

①花王優先評価物質のリスク評価および評価書の作成(3カテゴリー)

計画通りリスク評価を終了(累計21カテゴリー)し、結果をリスク評価書としてまとめました。3カテゴリーともにリスクは許容できるレベルでした。

また、2019年は、2017年にリスク評価を行なった花王優先評価物質の安全性要約書3件を公開しました。

さらに、ケミカル製品についても日本語版と英語版のGPS安全性要約書を18件作成し、公開しました。花王のグローバル公開件数は累計で159件となりました。

2019年公開

ポリカルボン酸ポリマー、塩化ベンザルコニウム、モノアルキルカチオン



→花王優先評価物質の安全性要約書
chemical.kao.com/jp/sustainability/saicm/article_05/

→GPS安全性要約書
chemical.kao.com/jp/sustainability/saicm/article_06/

②リスク評価結果について外部専門家と議論

日本毒性学会で以下の発表を行ない、専門家との議論により理解を深めました。

『生活関連化学物質のヒト健康および環境影響に関するリスクアセスメント-消費者製品の使用を考慮したアミドアミンの安全性評価-』

③リスク評価技術・手法の論文化

2019年は、以下の3報の環境リスク評価技術・手法の論文を発表しました。

- ・ Integrated Environmental Assessment and Management, vol 15, pp 750-759 (2019)
- ・ 水環境学会誌, vol 42, pp 79-89 (2019)
- ・ 水環境学会誌, vol 42, pp 201-206 (2019)

④化学物質総合管理システムのグローバル展開継続とさらなる強化

2019年は、現行システムへの新規原料登録を継続しました。また、規制強化などグローバルで加速する社会・環境の変化に加え、事業分野や展開国の拡大に対応するためにプロジェクトを発足させ、2020年の本格運用をめざしてシステムの強化に取り組みました。

2. 化学物質のライフサイクル管理

①化学物質を取り扱う現場でのリスクアセスメントに基づいたリスク低減対策

化学物質を取り扱う現場における作業者の安全保護

のため、2019年は主に以下の活動を行ないました。

- ・ リスクアセスメントに用いるコントロールバンディング法^{※1}を、生産現場でいつでも活用できるようシステム化。コントロールバンディング法に加え、必要に応じてECETOC TRA^{※2}とCREATE SIMPLE Ver2.0^{※3}を活用してアセスメントの精緻化を推進
- ・ 化粧品のような多品種少量生産品に関しては、生産エリアごとのリスク低減対策を推進
- ・ 日本で実施している化学物質リスクアセスメントのアジア展開

※1 コントロールバンディング法

化学物質の健康有害性についてのリスクアセスメント手法の一つ。国際労働機関(ILO)が、開発途上国の中小企業を対象に、有害性のある化学物質から労働者の健康を保護するために、簡単で実用的なリスクアセスメント手法を取り入れて開発した化学物質の管理手法。化学物質を取り扱う作業ごとに、化学物質の有害性、物理的形態(揮発性・飛散性)、取扱量の3つの要素によって、リスクの程度を4段階にランク区分し、管理のための一般的実施事項を区分ごとに示すほか、一般的に行なわれる作業については、より具体的な実施事項を示すことができるツールとなっている。

※2 ECETOC TRA (European Centre for Ecotoxicology and Toxicology of Chemicals Targeted Risk Assessment)

EUの化学物質登録制度であるREACHでも用いられているリスク評価ツール。リスク判定とともにリスク管理の方向性も得られる。

※3 CREATE-SIMPLE (Chemical Risk Easy Assessment Tool, Edited for Service Industry and Multiple workplaces)

厚生労働省が2018年度に公開した、サービス業など幅広い職場に向けた簡単な化学物質リスクアセスメントツール

②作業場GHS表示の日本の工場完了と日本以外の工場への展開継続

2016年から、作業者が作業前に、取り扱う化学物質の危険有害性を確認できるように、工場内の貯蔵タンク、サンプリングや充填などの化学物質を取り扱う場所へ

GHSに従った危険有害性表示を継続しています。2019年は、日本の10工場で表示を完了しました。

日本以外のグループ会社の22工場では、アジアの12工場でほぼ完了しました。



貯蔵タンクGHS表示(例) 原料受入れ口の作業場GHS表示(例)



原料サンプリング口の作業場GHS表示(例)

3. ステークホルダーとの化学物質リスクコミュニケーション

①SAICM推進活動成果物の一般公開



→詳細はP199「花王優先評価物質の安全性要約書」「GPS安全性要約書」

②双方向コミュニケーションの実施と検討継続



→詳細はP198「ステークホルダーとの化学物質に関するコミュニケーション」

グローバルな化学品法規制への適合

花王では、花王のSAICM推進基本方針に従い、製造もしくは直接・間接的に輸出している製品中の化学物質について、対象国や地域での化学品管理制度に基づき、その数量や危険有害性に応じた登録と管理を実施しています。

2017年よりケミカル関連会社に輸出入時の法規制チェックが行なえるシステムを導入し、法遵守の徹底に努めています。

1. 日本

化学物質の審査および製造等の規制に関する法律(化審法)に基づき、サプライチェーン連携を通じて既存化学物質の用途情報を調査し、確実に報告しました。

また、2019年度に運用が開始された、環境排出量も考慮した少量新規化学物質申出を、電子システムで実施しました。

2. 米国

2019年には、2016年に改正された米国TSCA^{※1}における既存物質リストの新たな運用などを受け、化学物質総合管理システムの改良やデータの更新を完了しました。

3. 中国

新化学物質環境管理弁法に基づき、現地法人と連携し、自社製品に含まれる新規化学物質について製造・輸

入前の届出・登録および数量報告を行ないました。

また、規制強化が見込まれている危険化学品条例、改正が予定されている新規化学物質環境管理弁法と化粧品監督管理条例、新設される予定の化学物質環境リスク評価及び管理制御条例について、業界団体や現地法人と連携して最新情報の把握に努めました。

4. 韓国

一部が改正された化評法(K-REACH)^{※2}で2019年から事前申告が開始されたのを受けて、花王では事前に対象物質の選定を終了し、期限内に遅滞なく申告を完了しました。各化学物質の協議体に参画し、順次登録作業を進めています。

5. その他

化学品管理制度を導入している欧州、北米(カナダ)、東・東南アジア、オセアニアの各国・地域の現地法人と連携して製造・輸入に必要な届出や管理を確実に、規制の新たな動きの情報収集に努めました。

※1 TSCA

Toxic Substances Control Act

米国において、人健康や環境に対して不合理なリスクのある化学物質を規制する法律

※2 化評法(K-REACH)

Act on Registration and Evaluation, etc. of Chemical substance
韓国の化学物質の登録および評価等に関する法律



花王(株)のケミカル事業部門が「JIPS賞」大賞を受賞

2019年2月、花王(株)のケミカル事業部門が「JIPS賞」大賞を受賞し、3年連続の受賞となりました。

「JIPS賞」は、一般社団法人日本化学工業協会の化学品管理委員会が2017年に創設した制度で、サプライチェーンを通じた化学品管理の自主活動GPS/JIPSで顕著な取り組みを行なった企業を表彰するものです。

花王(株)は昨年に引き続き、多くのGPS安全性要約書を公開し、積極的に化学物質管理に努めていることが評価されました。



授賞式